

システム上重要な金融機関（SIFIs）の認定手法に関する検証

近藤隆則（一橋大学大学院商学研究科博士後期課程）

白須洋子（青山学院大学経済学部）

吉野直行（慶應義塾大学経済学部）

1. はじめに

2008 年を頂点とするグローバル金融危機以降、「システム上重要な金融機関（SIFIs）」に対する世界的な規制強化が検討されている。既に 2011 年 11 月に、バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）によって「グローバルにシステム上重要な銀行（G-SIBs）」として 29 行が特定され公表されている。G-SIBs に認定された銀行には、自身の破綻処理計画の策定が義務付けられ、自己資本の上積みが求められる等の規制強化が予定されている。

保険監督者国際機構においても保険分野における SIFIs の認定をどのように行うかについて検討されており、2012 年 7 月には『国際的に活動する保険グループ（IAIG）』の監督のための共通の枠組みに関する市中協議文書が公表された。IAIG の認定方法や規制内容は保険業界にも大きな影響が及ぶと思われる。

本稿は、こうした重要性に鑑み、先行するバーゼル委の G-SIBs 認定のための評価手法の妥当性について検証を行うことを目的とする。

2. システム上重要な金融機関の認定に関する規制当局の動向

2-1. G-SIBs に関する動向

2011 年 11 月のカンヌ・サミット（G20 首脳会議）において、システム上重要な金融機関（SIFIs）に対処するための包括的な政策枠組みが合意された。この下で、現在、金融安定化理事会（FSB）が SIFIs に対する世界的な対応方針を策定しつつある。どの金融機関を SIFIs に認定するか（SIFIs の認定方法）については、銀行セクターについてバーゼル委が先行し、独自の方法を用いて評価を行い G-SIBs）として 29 行を認定した。日本の 3メガバンクを含む 29 行の名前は 2011 年 11 月に FSB によって公表されている（FSB (2011)）。

ここではバーゼル委による G-SIBs 認定方法について整理しておく。バーゼル委は、パブリック・コメントの手続きを経て、2011 年 11 月に「グローバルにシステム上重要な銀行：評価方法及び追加的な損失吸収力の要件」規則文書（Rules Text）を発表した（バーゼル委 (2011)）。そこで定められた評価方法では、「グローバルな活動」「規模」「相互関連性」「代替可能性」「複雑性」という同じウェイトの 5 つのカテゴリーを代表する 12 の指標でシステム上の重要性を評価する「指標アプローチ」が採用された（表 1）。具体的には、12 指標の各数値について、標本データ（2011 年 11 月評価時点では 73 行）の総計に対する個別銀